

8. 沿岸重要資源調査 (2) ソデイカの資源動態調査

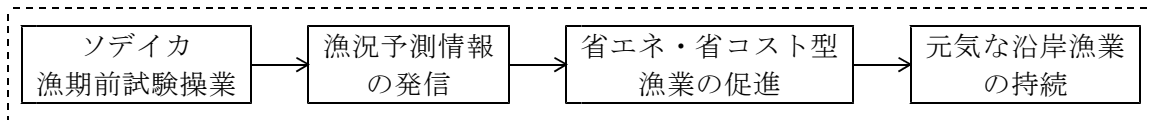
担 当：太田武行（増殖技術室）

実施期間：平成5年度～（平成24年度予算額：沿岸漁業重要資源調査8,673千円うちソデイカに関する予算額203千円）

目的・意義・目標設定：

沿岸漁業の重要対象種（底魚類・浮魚類等）の資源動向と漁獲実態に関する調査を行い、漁業者への資源管理方策の提言及び省エネ・省コスト型の漁業経営を促進するための情報発信を行う。

事業展開フロー



取り組みの成果

【課題1】：ソデイカ漁期前試験操業

1) 目的

近年、本県の夏季～冬季の沿岸漁業を支える重要な資源となっているソデイカについては、その生態学的知見や資源学的知見は非常に少なかった。しかし、H16～18年度に鳥取県、兵庫県、近畿大学、九州大学、水産大学校、日本海区水産研究所との共同研究が実施され、本種の基礎生態に関する情報が収集された。本事業はこれまでに得られた情報と漁期前試験操業によりソデイカの漁況予測情報を発信した。

2) 方法

- ・鳥取県漁協賀露本所所属の組合員の漁船を2隻用船し、H24年8月9日に試験操業を実施・試験操業は、樽流しで行い、A船（沖側）は35樽、B船（岸側）は34樽を使用した。
- ・操業場所は、図3のとおり

3) 結果

- ・H24年の漁獲量・金額は、238トン、77百万円でH23年の14トン、13百万円から大幅に増加した
- ・H24年の盛漁期の漁獲物組成は小型から大型まで幅広くモードの山があり、複数の来遊群が加入したことが示唆された。

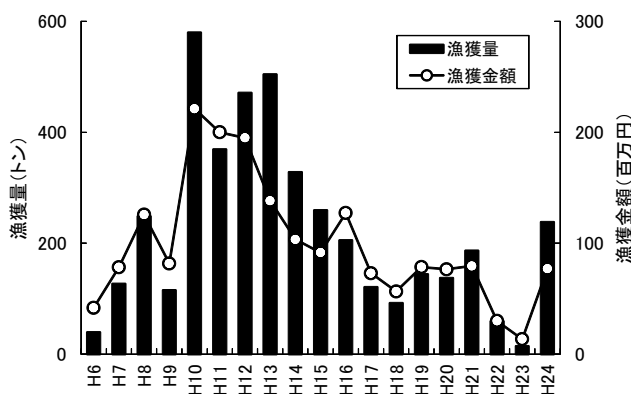


図1 鳥取県のソデイカの漁獲量と金額の推移

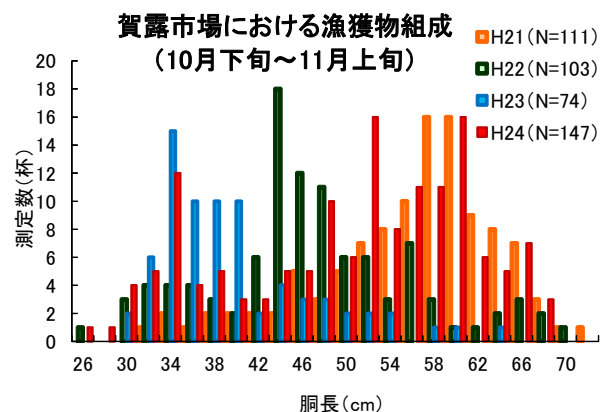


図2 賀露地方卸売市場における10月下旬から11月中旬のソデイカの胴長組成

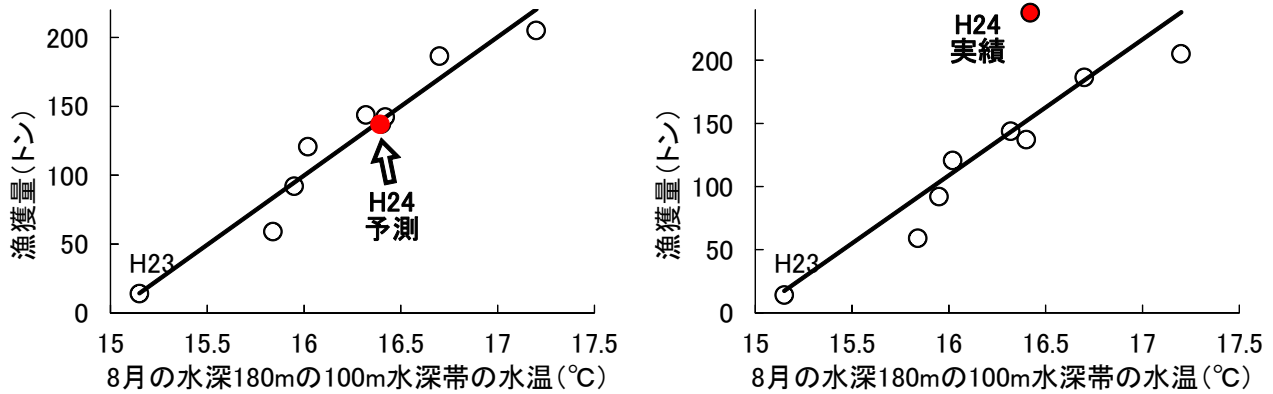
- ・ソデイカ漁期前試験操業では、13尾（ばらし5尾）の釣獲があり、例年より早い鳥取沖への来遊を確認した。

II. H24成果 8(2)ソデイカの資源動態調査

4) 考察

今期の漁獲量は、図4のとおり142トンと予測をしたが、実績は238トンと非常に多い結果となった。この漁獲量の好漁は、H24年6月の対馬海峡の水温、塩分等の環境条件が良く、早期から来遊群が多かったため、漁期が長く、複数の来遊群が漁場に参加したため、漁獲量が昨年に比べ大幅に増加したと考察された。

図4 鳥取県中部の8月の水深180m地点の深度100m水温と鳥取県のソデイカの漁獲量（左図：予測、



右図：実績)

5) 残された問題点及び課題

漁場が沖合であることもあり、漁況予測を行うことは、沿岸漁業者の省エネ・省コスト型漁業への促進に必要な情報であり、引き続き調査が必要ある。